

メディアリテラシー活動実施報告書

事業名 「24時間テレビ制作体験プログラム」

実施期間 2012年4月1日～8月31日

協力団体 清泉女学院大学

千曲市

千曲市社会福祉協議会

2012年12月

株式会社 テレビ信州

事業の概要

1 企画主旨

テレビ信州、清泉女学院大学（本部・長野市）、長野県千曲市の三者が連携して、大学生に番組制作の機会を提供する。3分程度のミニ番組制作の他、看板大型生番組に学生がスタッフとして制作参加するという特長がある。この事業に取り組むことにより、教育機関や自治体と連携しながら、地域を巻き込んだ新たなメディアリテラシー活動の可能性を広げる。

2 三者の協力関係

(1) テレビ信州と清泉女学院大学

2011年よりテレビ信州が清泉女学院大学に社員を派遣して、メディアリテラシーに関する寄付講座を開講している。

(2) テレビ信州と千曲市

日本テレビ系列のチャリティー番組「24時間テレビ」の長野県内向け放送で、2011年より千曲市のイベント会場からの中継を実施しており、両者の間に協力関係がある。

(2) 清泉女学院大学と千曲市

両者の間に「地域連携協定」が締結されており、大学の授業や地域づくりで協力関係がある。

3 実施内容

(1) 清泉女学院大学の学生が、「千曲市における福祉の取り組み」をテーマに“女子大学生の目線”で取材し、3分程度のVTR番組を制作する。

(2) 学生は24時間テレビの千曲市中継会場に生出演し、(1)で制作したVTRの紹介を交え活動の成果を発表する。また生放送の制作そのものにもスタッフとして参加する。

* 中継会場は千曲市社会福祉協議会主催のイベント「第3回千曲市ふれあい広場」

(3) 活動のプロセスをテレビ信州は、自社制作の情報ワイド番組「ゆうがたGet!」(月～金/16:30～17:53放送)で紹介するとともに、制作運営しているインターネットテレビ局「愛TVながの」でも公開する。

(4) テレビ信州社員・スタッフは学生の番組制作を支援し、そのプロセスで「送り手としてのリテラシー」を学ぶ。

(5) 千曲市は学生への取材協力や移動手段確保など、必要な支援を行うとともに、「千曲市ふれあい広場」における学生の生出演に協力する。

4 参加者と役割分担

(1) テレビ信州

- ・学生の番組制作支援
- ・情報ワイド「ゆうがたGet!」への学生生出演
- ・24時間テレビへの学生生出演と制作参加支援
- ・インターネットTV局「愛TVなの」へのメイキング番組掲載
- ・事業全体の企画、制作進行、連絡調整
- ・報告書、記録DVDの作成
- ・社内外への広報、報道対応

(2) 清泉女学院大学

<教員・事務局>

- ・事業の学内への周知、学生募集
- ・担当教員による学生への指導
- ・関係機関との連絡調整

<学生>

人間学部現代コミュニケーションコース学生 計29名

VTR番組制作班 10名

- ・ディレクター、カメラマン、編集、音声・BGM、字幕スーパー

生中継制作班 19名

- ・ディレクター、フロアディレクター、タイムキーパー、アシスタントディレクター、アシスタントカメラマン、番組広報

*24時間テレビでローカル中継枠が2回あるため学生を2班に分け交代で担当

(3) 千曲市

- ・総務部企画課が窓口となり学生への取材協力、送迎バス提供、連絡調整
- ・千曲市社会福祉協議会による取材受け入れ

5 活動経過

- 4 / 9 (月) 清泉女学院大学でオリエンテーション
- 4 / 16 (月) 授業①「千曲市の福祉最前線」取材企画検討
- 4 / 23 (月) 授業② “
- 5 / 7 (月) 授業③フィールドワーク (千曲市でリサーチ)
- 5 / 14 (月) 授業④撮影の基礎講座と役割分担決定
- 5 / 21 (月) 授業⑤フィールドワーク (千曲市取材先ロケハン)
- 5 / 28 (月) 授業⑥中間まとめ
- 6 / 4 (月) 授業⑦取材準備 (カメラワーク実習)
- 6 / 11 (月) 授業⑧取材
- 6 / 18 (月) 授業⑨取材
- 6 / 19 (火) 「ゆうがたG e t !」生出演
- 6 / 25 (月) 授業⑩V T R編集
- 7 / 2 (月) 授業⑪V T R編集
- 7 / 9 (月) 授業⑫V T R編集
- 7 / 23 (月) 授業⑬V T R編集仕上げ
- 8 / 4 (土) 授業⑭生放送のしくみ
- 8 / 11 (土) 授業⑮生放送スタッフの役割分担と仕事の流れ
- 8 / 21 (火) 「ゆうがたG e t !」生出演
- 8 / 25 (土) 授業⑯24時間テレビ事前番組中継現場 (長野市若里公園) と
テレビ信州見学
- 8 / 26 (日) 授業⑰24時間テレビ本番・出演と制作参加 (千曲市)

事業の成果

6 放送実績

(1) 「愛は地球を救う24時間テレビ35～未来」への学生生出演及び中継制作
8月26日(日)長野県ローカル放送枠の千曲市イベント会場より生中継

- ① 「千曲市中継コーナーⅠ」10:44～10:46(2分)
- ② 「千曲市中継コーナーⅡ」11:27～12:27(左記時間内で13分)
*学生制作番組「居場所」(VTR尺2分57秒)を放送
- ③ 「千曲市中継コーナーⅢ」12:27～12:29(2分)
- ④ 「千曲市中継コーナーⅣ」16:59～17:23(左記時間内で1分)

計約18分

(2) インターネットTV局「愛TVながの」で配信した番組

- ① 授業の様子と取組の紹介(2分44秒)
- ② 千曲市へのリサーチの様子(4分03秒)
- ③ 取材先でのロケの様子(4分16秒)
- ④ 「ゆうがたGet!」への出演の様子(4分17秒)
- ⑤ 「24時間テレビ」での生中継制作の様子(7分33秒)
- ⑥ 学生制作番組本編・番組タイトル「居場所」(2分57秒)

※ <http://www.itv-nagano.com/>

(3) 自社制作ローカルワイド「ゆうがたGet!」への学生生出演

- ① 6月19日(火)午後4時30分～5時53分の中で約10分
学生代表4名が活動の目的や番組制作状況を紹介した。
- ② 8月21日(火)午後4時30分～5時53分の中で約10分
学生代表6名が番組制作状況を報告し8月26日の24時間テレビに
出演することをPRした。

7 参加した学生の感想（活動終了後のレポートより抜粋・・・原文のまま）

- ・私は、24時間TVのスタッフで「カメラアシスタント」をさせていただきました。プロのカメラアシスタントのアシスタントと聞いていたので、あまり大変なことはしないだろうと思っていました。しかし、実際に自分でやってみると、出演者の方たちが見るためのテレビを運びながらコードの長さを調節し、カメラさんに付いて行きながら移動と、とても大変でした。ですが、その分、とても重要で無くてはならない仕事だとも感じました。
- ・当日はすごく暑い中スタッフのみなさんはずっと炎天下の中外に出ずっぱりだったのに、常にテキパキ行動していて、生放送中にハプニングが起こってもその場その場で臨機応変に対応していて、どのポジションの人もみんな協力して番組を作り上げていく所を見て、テレビはたくさんのスタッフの人たちの手で作られているのだなと気づきました。
- ・Qシートは大切だと思った。第1稿からしっかりした内容になっていたのに、まだまだ変更され、本番前日の夜まで変えるというのには驚いた。家で見ていただけではなかなか思わないが、すべてが予定通り進むわけではないのに、途切れることなく放送が続いていくことに感動した。
- ・テレビについて思うことは、体験をする前は、スタッフさんの役割分担がこんなに細かくわかれているとは知らず、1人の人がいろんなことをまとめて行っていると思っていた。しかし、実際にFDとして参加してみて、1つの番組を作り上げていくということは、出演者さんよりもはるかに多い人数のスタッフさんが、それぞれの役割をこなし、皆が一丸となっていくことでようやく番組が成り立つのだということに、驚きと感動を覚えた。
- ・私はこの番組制作体験をするまで番組を作るのは一握りの偉い人たちで、残りの人は皆その人の指示で動いているのだろうか、と思っていました。しかし体験後、番組制作は現場にいるスタッフさんたちが中心になって作っており、そこでは全員が一つの番組に携わっているのだと考えるようになりました。
- ・今回の体験は、生番組を放送することの大変さを知るとともに、生番組は実際のその場になくても今起きている事をリアルタイムで伝える事ができる唯一のものであり、テレビの必要性も改めて知る事が出来た。また、テレビについてもっと知りたいという思いも大きくなった、
- ・今回とても印象に残っているのが、一緒に仕事をさせていただいたアナウンサーさんです。休憩中の私たち学生に具合が悪くなったりしていないかと聞いて気遣ってくださったり、撮影の合間にゲストさんやスタッフさんたちに声をかけて和ませたりと周りへの配慮をしていたことです。こうした配慮で周りのモチベーションを上げ、よりよい放送をしようとしているのだろうと思いました。また、中継の少し前でも「この部分はこういった目的で何を伝えたいのか」とスタッフさんに細かいことを聞いていたことも、ただ中継するだけではなく、その中継で

何かをしっかりと伝えたいという意思がとても伝わってきました。

- ・今回の体験で、私たち視聴者が何気なく見ている放送でもテレビスタッフの皆さんはどうすれば視聴者に伝わりやすいのか、何を伝えていきたいのかをよく考えて番組を作っているのかということが実感できました。これからテレビを見る時は自分も番組が何を伝えようとしているのかということをよく考えて視聴していこうと考えさせられました。ただ見ているだけではわからないことも多くあります。視聴者はただ報道を見るだけではなく、その奥にあるものも考えていく必要があるのだと思います。
- ・放送終了後には番組を見ていた親や親戚、友人から連絡をもらうことができた。このことから、テレビの影響力の凄さを改めて感じた。このように影響力が強い仕事だからこそ台本を何回も作り変える、リハーサルを念入りにするなどといった慎重な行動や緊張感に繋がるのではないかと考える。
- ・今回スタッフとして参加させてもらい、改めてテレビの重要性に気付くことができました。新聞や携帯、パソコンなどの媒体で、いくらでも情報が見ることが出来る情報化社会での現代のテレビのメリットは、大勢の人と集まりながら視聴出来ることだと思います。特に24時間TVは、家族や友人などのたくさんの人と集まりながら見るのが良いと思います。新聞や携帯やパソコンでは、どうしても一人で見がちになってしまうので、団らんのある場を作るという言う意味でも、現代もテレビは無くしてはならないものだと感じました。毎年視聴者として見ていたのに対して、今回スタッフとして参加し、色々な観点から見る事が出来たからこそ気付けたと思います。
- ・テレビの付き合い方として、バラエティ番組やドラマを団らんのある場にする事は大切だと思います。しかし、報道番組やニュースを見るときは、距離を置いて客観的に見る事が重要になってくると思います。報道番組やニュースでは、キャスターやマスコミの意見が重要になってきますが、視聴者として見たら、キャスターやマスコミの意見に流されそうになるときもあると思います。しかし、そこで冷静に考え客観的に見てみることで、番組ごと色々な視点で見る事ができ、テレビと上手く付き合い、活用できると思います。今回、24時間TVのスタッフとして参加させていただいた経験を生かし、上手くテレビと付き合いしていきたいと思います。
- ・テレビは、とても良い情報源であり、接し方を間違えてしまえばとても恐ろしいものになってしまうものであると私は考えています。テレビで流されている情報のすべてを鵜呑みにしてしまうのではなくて正しいと思われる情報と視聴者に先入観を与えてしまうような情報、正しくない情報などを自分でしっかりと理解し、必要な情報を的確に得ることができれば良いと私は考えています。先入観にとらわれ、誤った情報を正しい情報と勘違いして得てしまうことによっては、人を傷つける凶器と化してしまうのでまずは先入観にとらわれないよう注意をしつつ必要な情報を手にしていくことが良いと思いました。

8 清泉女学院大学担当教員のコメント

- ・実際のテレビ局・番組を通じてメディアの仕組みを番組づくりの実際の現場にふれ、また市／自治体の施設（社協）の成り立ちや事業等にも踏み込んで、大学の授業という場ではできないような深い部分も体験を通じて学ぶことができた。
- ・限られた15回という授業の中、また仕事分担の上でチーム分けが必要となり、編集作業などは、受講学生全員で平等に取り組むことは難しく、仕事に偏りも出てきたりするのをコントロールすることに、まだまだ課題があるように思う。
- ・学生自身に考えさせ実行させるためには手を出しすぎてもよくないが、ただ自由にやれということでも学びにならないので、そのバランスを、各所からの要望や規制などとすりあわせることによって導き出す何んらかが、もっとできたのではないだろうか。今後に生かしてゆきたい。

9 テレビ信州担当者の感想

- ・受講学生が計29名という大人数となったため、担当の割り振りに苦労した。24時間テレビの中継枠が2回あったので、学生を2班に分け、全員が生放送を体験できるよう工夫をした。
- ・大学と千曲市との事前の打ち合わせに十分時間が取れなかった上、本事業の実施担当者が24時間テレビの制作も担当していたことから、ほとんどぶっつけ本番に近い形になってしまった。
- ・弊社ではメディアリテラシー活動に10年前から本格的に取り組んでいるが、24時間テレビという看板大型生番組を舞台にした実践は初のケースで、県内に一定の反響を広げられたのではないかと思う。
- ・学生のレポートを見ると生番組の制作に参加した「緊張感」や「感動」「達成感」を実感してもらえたことが伺える。当初の狙いが見事に当たったという手ごたえを感じることができた。